

報告日 令和7年11月20日
報告回次 1回目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	熊本県			代表者名	デジタル戦略推進課長 大村克行
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	デジタル戦略推進課	連絡先電話番号	096-333-2469
担当者役職	主事	担当者氏名	田中利来	連絡先E-mail	
住所	862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	連絡先部署
担当者氏名	連絡先電話番号

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的な課題への支援	事業名	熊本学園大学との「オープンデータ」利活用の推進に関する連携事業					
概要	大学生と社会人が、オープンデータや生成AIを活用し、地域課題に対する解決策について議論を深める中で、オープンデータに取り組む意義と新たな可能性を発見する機会とするため、イベントを開催する。このイベントにおいて、オープンデータ及び生成AIに係る基調講演及び効果的なプロンプトソンの実施について、ご協力いただきたい。							
支援を求める分野	オープンデータ 生成AI活用							

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日 (申請書より)	支援内容 (申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間 (分)
	令和7年11月15日	事前打合せ&支援・助言(実地)	13時00分	17時00分	
				活動時間 (分)	240
2-2. 派遣場所	会場名	熊本学園大学	最寄駅	水前寺駅	
	所在地	熊本県熊本市中央区大江2丁目5-1	最寄駅からの交通手段	北口から徒歩10分	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	牛島 清豪
評価	大変良い
上記評価の理由 (どのようによろがよかったです等詳細に)	全体を通して、身近な具体例を用いた講演内容となっており、大学生でもオープンデータの必要性や課題、取り組むことによる効果を理解しやすい内容となっていた。特に、所蔵資料の価値向上と、職員の業務効率化を同時に実現できた事例としてご紹介いただいた「佐賀県立図書館データベース」の例は、オープンデータ化に取り組んだ経緯・法的根拠と、オープンデータ化によって業務負担が軽減されただけでなく、データ利用により図書館の知名度向上につながったという身近かつ素晴らしい内容であった。また、ライセンスの話題では、国の動向とともに熊本県を事例に紹介いただいたことで、身近な課題として内容を受け止め、考えることができる内容となっていた。
アドバイザーへの要望事項	引き続き、公共機関や九州内の取り組み内容を例にご講演いただくことで、大学生・民間企業職員等、行政と身近でない方々でも現状・効果を身近にイメージし、理解しやすい内容としていただきたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性 (職員、一般、企業等) について【自由記述】		合計人数	12人
属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	2	0	4	6

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	県と熊本学園大学が連携してデジタル人材の育成やオープンデータの利活用に関する機運醸成を図るため、令和5年7月に、オープンデータ利活用の推進に関する連携協定を締結した。協定締結以降、学生を対象とした3回のイベントを実施してきたほか、毎年1回、本県の職員による学生向けの特別講義を実施している。本県では、県や市町村が保有する行政データのオープン化を推進しており、公開データ数は増加しているものの、利活用は進んでおらず、地域課題の解決など具体的な課題解決につながるデータ利活用の推進が課題となっている。
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	イベントを通して、学生と社会人という異なる立場の参加者が、生成AIを活用しながら自由にアイデアを出し合い、地域課題の可視化とその解決に向けた提案を行う。このように、オープンデータの活用方法や有用なデータの発掘を通じて、取組事例を創出・発信することで、県内におけるオープンデータ利活用のさらなる促進がなされることを目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	「データが描く地域の未来」と題し、行政におけるオープンデータの近年の動向や、公開時の注意点から、データを用いた地域の「共創」についてご講演いただいた。内容は、「佐賀県立図書館データベース」や、熊本県の状況など、身近な具体例を用いた説明となっており、大学生でもオープンデータの必要性や課題、取り組むことによる効果を理解しやすい内容となっていた。アイデアソンの時間には、グループワーク中に各テーブルを回り、適宜生成AIを用いてアイデアを可視化するといった補助も行っていただいた。
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	イベント終了後に実施したアンケート結果から、学生の「AI」や「データ」に対する意識が改善されている。大学の授業では、AIに対する危機感や、データよりも「想い」を重んじる教えがあることから、抵抗感を抱いていた学生が、生成AIを上手く活用した課題・仮設設定力、政策提案力が重要で、そのためにはより多くのデータが必要ということを理解していた。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑦その他 データ利活用を実際に体験し、生成AIの活用を目の当たりにしたことで、参加学生の「AI」や「データ利活用」に対する抵抗感が払拭された。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	支援を受けた結果、持ち越しとなった事項はない。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても構構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 イベント参加により、学生の、データを扱うことに対する苦手意識が払拭され、回答した全員が今後も同様のイベントに参加したいと回答。引き続き、大学・講師と連携し、学生の「オープンデータ」に対する抵抗感を減らし、必要性を伝える取組が必要。
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい ④予算以外で、今後取組む事項がある 引き続き、熊本学園大学と連携した同様のイベント開催で、学生を中心に県内のオープンデータ利活用の機運醸成に努めていく。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	熊本学園大学と連携し、オープンデータ利活用の機運醸成や活用事例の創出と社会への発信、デジタル人材の育成を行うことで、県内におけるオープンデータの利活用を促進すること。

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

なお「その他」を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

